

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月11日
【四半期会計期間】	第51期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)
【会社名】	株式会社A0I Pro.
【英訳名】	A0I Pro.Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤 原 次 彦
【本店の所在の場所】	東京都品川区大崎一丁目5番1号
【電話番号】	03(3779)8000(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 八 重 檉 悟
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区大崎一丁目5番1号
【電話番号】	03(3779)8000(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 八 重 檉 悟
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第50期 第2四半期 連結累計期間	第51期 第2四半期 連結累計期間	第50期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (千円)	12,714,788	13,183,186	25,568,288
経常利益 (千円)	771,212	722,391	1,383,153
四半期(当期)純利益 (千円)	284,398	273,987	310,575
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	339,729	709,283	438,616
純資産額 (千円)	10,061,493	10,715,199	10,131,021
総資産額 (千円)	20,141,220	22,283,886	20,867,362
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	23.95	22.95	26.15
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	23.78	22.46	25.87
自己資本比率 (%)	48.0	45.5	46.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	593,048	611,257	1,175,562
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△195,825	△364,147	△366,536
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△499,943	1,087,767	△786,403
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	2,233,991	3,707,267	2,364,701

回次	第50期 第2四半期 連結会計期間	第51期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	7.96	14.30

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(広告制作事業)

株式取得 北京葵友広告有限公司（連結子会社）

株式取得 (株)大日（連結子会社）

新規設立 AOI Systems Vietnam Ltd（連結子会社）

なお、(株)ビジネス・アーキテクツ（連結子会社）及び(株)BAメガパワーズ（持分法適用非連結子会社）は、平成25年5月1日付にて(株)ビジネス・アーキテクツを存続会社とする吸収合併を行っております。

(メディア関連事業)

新規設立 (株)P.A.R. Sports Marketing（連結子会社）

この結果、平成25年9月30日現在では、当社グループは、当社、連結子会社19社及び持分法適用会社3社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各種経済対策や金融政策等による円安・株高を背景に、国内生産・海外輸出の回復への期待が高まり、消費者マインドや企業マインドに改善が見られることから、穏やかな回復基調となりました。

このような状況のもとで、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高131億8千3百万円（前年同四半期比103.7%）、営業利益7億7千3百万円（前年同四半期比96.3%）、経常利益7億2千2百万円（前年同四半期比93.7%）、四半期純利益2億7千3百万円（前年同四半期比96.3%）となりました。

当社グループのセグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 広告制作事業

わが国経済の動きを反映し、広告需要も改善傾向にあることに加え、グループ全社を挙げた営業体制強化、中期経営計画に基づくデジタル部門の強化やアジアを中心とするグローバル展開等新たな取組みとの相乗効果等により、当第2四半期連結累計期間の売上高は124億6千5百万円（前年同四半期比103.9%）となりました。

一方、セグメント利益は、前連結会計年度に上昇した当社の制作原価率は低下傾向にあるものの、前年同四半期比では事業規模拡大に対応した人員増や新たな取組みに伴う先行的費用等の支出増もあり、8億9千3百万円（前年同四半期比96.3%）となりました。

② 写真スタジオ事業

平成22年6月、当社グループがこれまで培ってきた映像制作ノウハウを広く一般消費者にも体験していただくことで当社グループのブランド認知度向上を図るため、当社連結子会社の㈱ホリーホックにて、コンシューマー向け写真館運営事業及び全国の写真館に対する販売促進支援を行う「写真スタジオ事業」を開始することを決定し、平成22年9月、東京ミッドタウンに「写真スタジオhollyhock」第一号店を、平成24年5月には自由が丘に第二号店をオープンさせました。当第2四半期連結累計期間の売上高は、BtoC事業である店舗売上は増加傾向にあるものの、BtoB事業である写真館に対する販売促進支援事業の売上減少により、2千8百万円（前年同四半期比98.7%）となりました。

一方、粗利率の高い店舗売上の増加等により、セグメント損失は1千3百万円（前年同四半期は、セグメント損失2千万円）と減少しました。今後、七五三記念撮影需要等を確実に取り込んでいくことで、売上の増強を図ってまいります。

③ メディア関連事業

平成23年4月1日、ゴルフに係る出版・広告・オンライン事業を行う㈱パーゴルフ（現㈱Pargolf & Company）を子会社化し、当社グループとして初めて「メディア」を保有することになりました。本年6月には、新オンラインサービス「ParOn.」をスタートさせ、ゴルフ場予約サイトを運営する楽天㈱との業務提携、「Yahoo!JAPAN」のニュースサイトへのニュース配信等を行うとともに、「週刊パーゴルフ」を「Weekly Pargolf」として全面刷新し、雑誌メディアとオンラインメディアを連動させた新たな情報プラットフォームを構築しております。

こうした取り組みの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は6億8千8百万円（前年同四半期比100.5%）、セグメント損失は1億3千8百万円（前年同四半期は、セグメント損失1億3千6百万円）となりました。

今後も「Weekly Pargolf」の持つブランド力と編集力に、当社グループが持つデジタル映像制作技術、エンタテインメントコンテンツ制作ノウハウと創造力を加えた、ゴルフ総合サービスを提供してまいります。

なお、セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。また、記載金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態の分析

① 資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の四半期連結貸借対照表上の資産合計残高は222億8千3百万円（前連結会計年度末比14億1千6百万円増）となりました。これは、主に現金及び預金や投資有価証券の増加等によるものです。

② 負債の状況

当第2四半期連結会計期間末の四半期連結貸借対照表上の負債合計残高は115億6千8百万円（前連結会計年度末比8億3千2百万円増）となりました。これは、主に長期借入金の増加等によるものです。

③ 純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の四半期連結貸借対照表上の純資産合計残高は107億1千5百万円（前連結会計年度末比5億8千4百万円増）となりました。これは、主にその他有価証券評価差額金の増加等によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、37億7百万円となり、前連結会計期間末に比べ、13億4千2百万円増加しました。これは、主に営業活動及び財務活動による収入が投資活動による支出を上回ったことによるものです。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、6億1千1百万円（前年同四半期比1千8百万円増）となりました。これは、主に四半期純利益の獲得や売上債権の増加等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の使用した資金は、3億6千4百万円（前年同四半期比1億6千8百万円増）となりました。これは、主に有形固定資産及び子会社株式の取得による支出等が発生したことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、10億8千7百万円（前年同四半期は使用した資金4億9千9百万円）となりました。これは、主に長期借入金の増加等によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第２四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 従業員数

当第２四半期連結累計期間における連結会社の従業員数は、前連結会計年度末より127人増加し783人となりました。

セグメント別の内訳は、事業拡大に伴う新規採用等により「広告制作事業」において123名、「メディア関連事業」において４名増加しております。

なお、従業員数は就業人員であり、契約社員等は含んでおりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	38,000,000
計	38,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,334,640	13,334,640	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	13,334,640	13,334,640	—	—

(注) 「提出日現在発行数」には、平成25年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	—	13,334,640	—	3,323,900	—	830,975

(6) 【大株主の状況】

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	平成25年9月30日現在
			発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
(株)コスモチャンネル	神奈川県横浜市青葉区美しが丘1-12-32	1,373	10.30
(株)イマジカ・ロボットホールディングス	東京都品川区東五反田2-14-1	1,000	7.49
原 仁	神奈川県横浜市青葉区	400	2.99
松本 洋一	神奈川県横浜市青葉区	400	2.99
原 文子	神奈川県横浜市青葉区	328	2.45
AOI Pro.従業員持株会	東京都品川区大崎1-5-1	303	2.27
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	235	1.76
(株)オムニバス・ジャパン	東京都港区赤坂7-9-11	220	1.64
明治安田生命保険相互会社	東京都中央区晴海1-8-12	170	1.28
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	169	1.26
計	—	4,600	34.50

- (注) 1. 当社の自己株式(1,358千株)は、議決権がないため、上記の表には含めておりません。
2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)及び日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数は、全て信託業務に係る株式数であります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	平成25年9月30日現在
			内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,358,500	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,964,100	119,641	—
単元未満株式	普通株式 12,040	—	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	13,334,640	—	—
総株主の議決権	—	119,641	—

- (注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」の欄は、全て当社保有の自己株式であります。
2. 「完全議決権株式(その他)」の普通株式数には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(株)AOI Pro.	東京都品川区大崎 1-5-1	1,358,500	—	1,358,500	10.19
計	—	1,358,500	—	1,358,500	10.19

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第４ 【経理の状況】

１．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

２．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、第２四半期連結会計期間(平成25年７月１日から平成25年９月30日まで)及び第２四半期連結累計期間(平成25年４月１日から平成25年９月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,631,636	3,977,207
受取手形及び売掛金	※2, ※3 9,562,392	8,650,120
商品及び製品	39,391	42,373
仕掛品	1,190,633	1,017,161
貯蔵品	29,443	30,241
その他	347,249	348,934
貸倒引当金	△12,916	△7,846
流動資産合計	13,787,831	14,058,191
固定資産		
有形固定資産		
土地	3,454,646	3,454,646
その他（純額）	1,500,600	1,859,302
有形固定資産合計	4,955,246	5,313,948
無形固定資産		
のれん	191,872	214,324
その他	129,877	277,290
無形固定資産合計	321,749	491,614
投資その他の資産		
投資有価証券	873,287	1,427,969
その他	948,586	1,019,090
貸倒引当金	△19,339	△26,928
投資その他の資産合計	1,802,534	2,420,132
固定資産合計	7,079,530	8,225,695
資産合計	20,867,362	22,283,886
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,010,754	2,477,579
短期借入金	3,204,628	3,197,786
未払法人税等	623,729	411,454
賞与引当金	108,745	121,950
返品調整引当金	117,211	111,045
その他	1,047,610	1,217,958
流動負債合計	8,112,679	7,537,774
固定負債		
社債	—	50,000
長期借入金	2,232,069	3,345,041
長期未払金	30,571	30,205
退職給付引当金	201,506	227,237
役員退職慰労引当金	50,489	53,468
資産除去債務	55,715	89,519
その他	53,309	235,441
固定負債合計	2,623,661	4,030,913
負債合計	10,736,341	11,568,687

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,323,900	3,323,900
資本剰余金	3,931,769	3,933,424
利益剰余金	3,321,369	3,404,858
自己株式	△898,699	△854,766
株主資本合計	9,678,340	9,807,416
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△45,179	321,622
為替換算調整勘定	△136	8,759
その他の包括利益累計額合計	△45,316	330,381
新株予約権	85,078	92,789
少数株主持分	412,918	484,611
純資産合計	10,131,021	10,715,199
負債純資産合計	20,867,362	22,283,886

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	12,714,788	13,183,186
売上原価	10,450,560	10,737,022
売上総利益	2,264,228	2,446,164
返品調整引当金戻入額	119,611	117,211
返品調整引当金繰入額	108,389	111,045
差引売上総利益	2,275,450	2,452,331
販売費及び一般管理費		
役員報酬	230,755	261,495
従業員給料	411,144	498,354
株式報酬費用	—	1,772
賞与引当金繰入額	18,439	19,060
退職給付費用	23,355	13,734
役員退職慰労引当金繰入額	6,411	2,978
貸倒引当金繰入額	△5,735	△6,264
のれん償却額	77,714	48,451
その他	710,322	839,220
販売費及び一般管理費合計	1,472,407	1,678,802
営業利益	803,042	773,528
営業外収益		
受取利息	175	211
受取配当金	14,704	15,777
為替差益	235	—
受取保険金	4,696	2,650
持分法による投資利益	3,222	2,956
負ののれん償却額	1,532	—
その他	13,516	11,093
営業外収益合計	38,083	32,689
営業外費用		
支払利息	48,985	50,218
為替差損	—	9,231
その他	20,927	24,377
営業外費用合計	69,913	83,827
経常利益	771,212	722,391

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
特別利益		
負ののれん発生益	—	61,892
特別利益合計	—	61,892
特別損失		
投資有価証券評価損	—	24,899
会員権評価損	4,028	1,890
特別損失合計	4,028	26,789
税金等調整前四半期純利益	767,184	757,494
法人税、住民税及び事業税	444,618	400,673
法人税等調整額	△17,821	22,597
法人税等合計	426,796	423,271
少数株主損益調整前四半期純利益	340,388	334,223
少数株主利益	55,990	60,235
四半期純利益	284,398	273,987

【四半期連結包括利益計算書】
【第２四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第２四半期連結累計期間 (自 平成24年４月１日 至 平成24年９月30日)	当第２四半期連結累計期間 (自 平成25年４月１日 至 平成25年９月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	340,388	334,223
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,875	366,802
為替換算調整勘定	△2,534	7,719
持分法適用会社に対する持分相当額	—	538
その他の包括利益合計	△658	375,060
四半期包括利益	339,729	709,283
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	283,735	649,685
少数株主に係る四半期包括利益	55,993	59,597

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	767,184	757,494
減価償却費	185,468	168,060
のれん償却額	77,714	48,451
負ののれん発生益	—	△61,892
持分法による投資損益 (△は益)	△3,222	△2,956
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5,735	△6,301
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	88,164	20,499
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	6,411	2,978
賞与引当金の増減額 (△は減少)	9,967	6,731
受取利息及び受取配当金	△14,880	△15,989
支払利息	48,985	50,218
為替差損益 (△は益)	3,581	△775
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	24,899
売上債権の増減額 (△は増加)	401,787	955,169
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△51,260	171,207
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	11,083	△20,310
仕入債務の増減額 (△は減少)	△307,556	△552,890
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△11,221	△6,166
その他の負債の増減額 (△は減少)	△121,043	△308,925
その他	8,815	22,636
小計	1,094,244	1,252,138
利息及び配当金の受取額	14,871	15,953
利息の支払額	△46,440	△47,633
法人税等の支払額	△469,626	△609,200
営業活動によるキャッシュ・フロー	593,048	611,257
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3,390	△15,185
有形固定資産の取得による支出	△143,007	△90,850
無形固定資産の取得による支出	△5,990	△53,762
投資有価証券の取得による支出	△80,000	—
子会社株式の取得による支出	—	△2,500
出資金の払込による支出	—	△34,650
貸付けによる支出	△11,021	△9,894
貸付金の回収による収入	12,714	19,397
敷金及び保証金の差入による支出	—	△69,874
敷金及び保証金の回収による収入	68,329	21,692
保険積立金の解約による収入	7,000	91
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△89,972
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	△40,460	△38,638
投資活動によるキャッシュ・フロー	△195,825	△364,147

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△1,505,000	△238,178
長期借入れによる収入	2,000,000	2,200,000
長期借入金の返済による支出	△808,498	△855,587
社債の発行による収入	—	50,000
リース債務の返済による支出	△19,946	△21,195
少数株主からの払込みによる収入	—	148,000
自己株式の取得による支出	△156	△108
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	10,680
配当金の支払額	△154,342	△190,499
少数株主への配当金の支払額	△12,000	△15,343
財務活動によるキャッシュ・フロー	△499,943	1,087,767
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,581	3,151
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△106,303	1,338,028
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	4,537
現金及び現金同等物の期首残高	2,340,294	2,364,701
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 2,233,991	※1 3,707,267

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	
連結の範囲の重要な変更	
第1四半期連結会計期間より、新たに設立したA O I Systems Vietnam Ltd、(株)P.A.R. Sports Marketing及び新たに株式を取得した北京葵友広告有限公司を連結の範囲に含めております。	
当第2四半期連結会計期間より、新たに株式を取得した(株)大日を連結の範囲に含めております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 保証債務

従業員の金融機関からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
従業員	56,155千円	56,873千円

※2. 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形割引高	33,786千円	—

※3. 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形	8,872千円	—

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

当社グループの売上高は9月・3月にそれぞれ10月・4月のテレビ番組改編期を控え、増加する(とりわけ3月への集中が著しい)傾向があります。すなわち第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間の占める割合が大きくなります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
現金及び預金	2,370,925千円	3,977,207千円
預入期間が 3 か月を超える定期預金	△136,934千円	△269,940千円
現金及び現金同等物	2,233,991千円	3,707,267千円

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年 6 月27日 定時株主総会	普通株式	154,342	13.00	平成24年 3 月31日	平成24年 6 月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月12日 取締役会	普通株式	83,105	7.00	平成24年 9 月30日	平成24年12月 5 日	利益剰余金

当第 2 四半期連結累計期間(自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年 6 月26日 定時株主総会	普通株式	190,499	16.00	平成25年 3 月31日	平成25年 6 月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月11日 取締役会	普通株式	83,832	7.00	平成25年 9 月30日	平成25年12月 5 日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	広告制作	写真スタジオ	メディア関連	計		
売上高						
外部顧客に対する売上高	12,000,115	29,359	685,313	12,714,788	—	12,714,788
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,016	14,875	5,075	23,966	△23,966	—
計	12,004,132	44,235	690,388	12,738,755	△23,966	12,714,788
セグメント利益又は損失 (△)	928,604	△20,851	△136,541	771,212	—	771,212

(注) 1. セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去額であります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1、2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	広告制作	写真スタジオ	メディア関連	計		
売上高						
外部顧客に対する売上高	12,465,635	28,974	688,576	13,183,186	—	13,183,186
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,715	20,881	115	22,712	△22,712	—
計	12,467,350	49,855	688,692	13,205,898	△22,712	13,183,186
セグメント利益又は損失 (△)	893,846	△13,646	△138,142	742,058	△19,666	722,391

(注) 1. セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去額であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間未実現利益消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとののれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「広告制作事業」において北京葵友广告有限公司の株式を取得し連結子会社としたこと及び株式会社デジタル・ガーデンの株式を追加取得したことから、のれんの金額に重要な変動が生じております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては68,617千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

「広告制作事業」において株式会社大日の株式を取得し連結子会社としたこと等から、重要な負ののれん発生益が生じております。

なお、当該事象等による負ののれん発生益は、当第2四半期連結累計期間においては61,892千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	23円95銭	22円95銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	284,398	273,987
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(千円)	284,398	273,987
普通株式の期中平均株式数(株)	11,872,401	11,939,388
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	23円78銭	22円46銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	89,198	259,854
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	第4回新株予約権の行使価格は平均株価を上回っておりますので、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めておりません。	— — —

２ 【その他】

平成25年11月11日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

① 中間配当による配当金の総額	83,832千円
② １株当たりの金額	7円00銭
③ 支払請求権の効力発生日並びに支払開始日	平成25年12月５日

(注) 平成25年９月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主又は登録質権者に対し、支払いを行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月8日

株式会社AOI Pro.
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 三 澤 幸 之 助 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 野 田 智 也 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社AOI Pro.の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社AOI Pro.及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。